

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 3 区分
 【発行日】平成 19 年 11 月 29 日 (2007.11.29)

【公表番号】特表 2007-520814 (P2007-520814A)
 【公表日】平成 19 年 7 月 26 日 (2007.7.26)
 【年通号数】公開・登録公報 2007-028
 【出願番号】特願 2006-549933 (P2006-549933)
 【国際特許分類】

G 0 6 F 9/50 (2006.01)

【F I】

G 0 6 F 9/46 4 6 2 A

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 10 月 10 日 (2007.10.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

データ処理システムにおいてリソースを論理的にプロビジョニングする方法であって、前記方法が、プロビジョニング環境で複数のリソースのうちの 1 つについての要求を受信するステップであって、前記複数のリソースのうちの前記 1 つが複数の異なるタイプのリソースのうちの 1 つであるものと、前記複数のリソースのうちの前記 1 つの特定のインスタンスを、前記複数の異なるタイプのリソースのうちの未割り当ての利用可能なリソースのグループから選択するステップと、前期選択した特定のインスタンスと他のリソースとの論理的な関係を確立することによって、前記要求を履行するために前記選択した特定のインスタンスを論理的にプロビジョニングするステップとを有することを特徴とする方法。

【請求項 2】

前記選択した特定のインスタンスが使用するために必要な前記複数のリソースのうちの他のものを識別するステップをさらに有することを特徴とする請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記他のものの各々の特定のインスタンスを、前記選択した特定のインスタンスが使用するために必要な前記複数の異なるタイプのリソースのうちの未割り当ての利用可能なリソースのグループから選択するステップと、前記他のものの各々の間に論理的な関係を確立することによって、要求を履行するために前記他のものの各々について前記選択した特定のインスタンスを論理的にプロビジョニングするステップとをさらに有することを特徴とする請求項 1 または請求項 2 に記載の方法。

【請求項 4】

前記選択した特定のインスタンスが予約される過程にあることを示すステップであって、前記選択した特定のインスタンスが予約される過程にあるとして示された後は選択に利用できないものをさらに有することを特徴とする請求項 1 乃至請求項 3 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 5】

前記未割り当ての利用可能なリソースのグループが、前記複数のリソースのうちの他のものと予め割り当てられた論理的対応関係を含まないステップをさらに有することを特徴とする請求項 1 乃至請求項 4 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 6】

状態変数を前記複数のリソースの各々に対応付けるステップと、前記状態変数を利用して前記複数のリソースの各々が選択に利用可能かどうかを示すステップとをさらに有することを特徴とする請求項 1 乃至請求項 5 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 7】

状態変数を前記複数のリソースの各々に対応付けるステップと、前記状態変数を利用して、前記複数のリソースの各々が共有されているかどうかを示すステップとをさらに有することを特徴とする請求項 1 乃至請求項 6 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 8】

状態変数を前記複数のリソースの各々に対応付けるステップと、前記状態変数を利用して、前記複数のリソースの各々が予約されているかどうかを示すステップであって、予約済みのリソースが前記プロビジョニング環境と確立された論理的关系をもつものとをさらに有することを特徴とする請求項 1 乃至請求項 7 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 9】

前記プロビジョニング環境のトポロジを作成するステップであって、前記トポロジが前記複数の異なるタイプのリソースのレイアウトを含むものと、前記レイアウトが、前記複数の異なるタイプのリソース間の関係を定義するステップとをさらに有することを特徴とする請求項 1 乃至請求項 8 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 10】

前記レイアウトが定義する前記関係を利用して、前記選択した特定のインスタンスが使用するために必要な前記複数のリソースのうちの他のものを識別するステップをさらに有することを特徴とする請求項 9 に記載の方法。

【請求項 11】

前記特定のインスタンスに対応付けることになる前記複数のリソースの他のものを判定するステップをさらに有することを特徴とする請求項 10 に記載の方法。

【請求項 12】

前記複数のリソースの中から、前記特定のインスタンスに依存する他のものを判定するステップをさらに有することを特徴とする請求項 10 に記載の方法。

【請求項 13】

データ処理システムにおいてリソースを論理的にプロビジョニングするシステムであって、前記システムに内蔵されて、プロビジョニング環境で複数のリソースのうちの 1 つについての要求を受信するためのコードを実行する CPU であって、前記複数のリソースのうちの前記 1 つが複数の異なるタイプのリソースのうちの 1 つであるものと、前記システムに内蔵されて、前記複数の異なるタイプのリソースの未割り当ての利用可能なリソースのグループから、前記複数のリソースの前記 1 つの特定のインスタンスを選択するためのコードを実行する CPU と、前記システムに内蔵されて、前記選択した特定のインスタンスと他のリソースとの論理的关系を確立することによって、前記要求を履行するために前記選択した特定のインスタンスを追加して前記選択した特定のインスタンスを論理的にプロビジョニングするためのコードを実行する CPU とを有することを特徴とするシステム。

【請求項 14】

リソースを論理的にプロビジョニングするデータ処理システムのコンピュータプログラムで、前記プログラムが、プロビジョニング環境で複数のリソースのうちの 1 つについての要求を受け取る命令手段であって、前記複数のリソースのうちの 1 つが複数の異なるタイプのリソースのうちの 1 つであるものと、前記複数の異なるタイプのリソースのうち未割り当てで利用可能なリソースのグループから、前記複数のリソースのうちの前記 1 つの特定のインスタンスを選択する命令手段と、前記選択した特定のインスタンスと他のリソースとの論理的关系を確立することによって、要求を履行するために前記選択した特定のインスタンスを追加して前記選択した特定のインスタンスを論理的にプロビジョニングする命令手段とを有することを特徴とするプログラム。